

第1回（平成24年6月期）番組審議会議事録

1. 開催日時 2012年6月27日（水）17:00～18:00

2. 開催場所 弊社会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名
出席委員 6名 正岡健二・山本幸男・木辻清子・為岡務・平川愛恵・宮川清
欠席委員 2名 萩尾利雄・西修
放送事業者側出席者 金千秋・平野由美子

4. 議事

4-1. 委員就任承諾へのお礼

4-2. 各委員の紹介

4-3. 今年度委員長の選出 西修氏を2011年度に引き続き選出

4-4. 番組審議

第1回審議番組「耳をすませてリスニングトゥゲザー」

関西学院大学総合政策学部山中速人研究室メディアの演習（2012年度）

～阪神・淡路から東日本へ 神戸の教訓は生かされたか？～

6月7日（木）13:00～13:25 放送

6月12日（火）13:00～13:25 再放送

担当： 関西学院大学総合政策学部

山中速人教授

荘（3年）、本谷、越智、柴田、阪上（2年）

お話をうかがった方： 小林郁雄さん（神戸山手大学環境文化学科教授）

この番組は、2012年5月24日から7月12日までの毎週木曜日13:00～13:25放送（翌週火曜日12:00～13:25放送「まちはイキイキきらめきタイム」の中の13:00～13:25に再放送）している。

今期の番組制作テーマは、阪神・淡路大震災の教訓は東日本大震災の復興にどうかされるか、あるいはいかされていないかという比較について取材し番組にまとめ、関西学院大学三田キャンパス、山中ラボ特設サテライトスタジオから放送するものである。

5. 議事の概要

番組の基本コンセプトの説明後、審議を行う。

6. 審議内容

6-1. 欠席者の審議紹介

【萩尾利雄委員】

- ・ テーマが素晴らしい。東日本の震災は阪神・淡路の震災と同様に様々な場面で語られることが大切だと常々考えている。
- ・ レポーターが意見を述べるのが気掛りであった。小林氏自身の出演がなかったのは残念である。ご自身の語り口調や間の取り方から読み取ることは多いと考える。学生の訓練が主たる目的ならしかたがないかもしれないが。
- ・ 広範囲の被災地の復興は、30年という長い年月を想定しなければならない。住民主体の復興計画が必要であるのはその通りだが、長期間の計画には若い人たちの意見が最も大切だと考える。若い人たちが将来どのような町で暮らしたいかを考えることが基本である。
- ・ 阪神・淡路の経験がどのように生かされるのかは、都市計画の分野だけではない。避難者の

ケア、医療の分野、教育の分野等々様々ある。それらが総合して都市計画が成り立つことを知ってほしい。

6-2. 出席者の審議

【平川愛恵委員】

- ・ 学生のレポート発表をなぜラジオでしているのか意味が理解できなかった。
- ・ 一人一人の話が長く、前後関係がよくわからなかった。
- ・ 小林氏をよく知っているの、いつ出番があるかと待っていた。ご本人が出演しないという説明がなかった。
- ・ 放送は一回流れると後戻りはできないものである。自分たちの番組を学生同士で聴き合ったり、もっと短いやり取りをして話し合うなどしてコミュニケーションがもっと取れているように感じられたら聴きやすかったのではないか。

【正岡健二委員】

- ・ そもそも、「ラジオ」というものをもっと認識しなければならない。早いしゃべりはNG。ゆっくりと相手に伝えるというのがラジオの特徴。そのあたりは学生でも妥協はできない。テレビではない。
- ・ 学生の発表は学内でやるべきで、公共の放送であると思えない。今までも関西学院大学生の番組を聴いたが進化が感じられない。
- ・ 小林氏の生の声と学生のレポートを対比させたら面白かったと思う。
- ・ テーマが阪神と東日本の対比であるなら、神戸のことももっと調査するべきで、それらを踏まえたレポートであるべきだ。優等生すぎるまとめも残念であった。
- ・ 実験する時間は別に作るべきである。

【為岡勉委員】

- ・ 声が小さかった。原稿を読んでいるのが丸分かりなのでリスナーはチャンネルを変えてしまうのではないかと思った。
- ・ 内容もパッとこなかった。
- ・ 学生のしゃべりにもう一つ面白味がなかった。一所懸命さはわかるが、愛嬌が感じられない。

【山本幸男委員】

- ・ 何度も聴いたが内容が頭に残らなかった。ラジオ番組なのだからアナウンサー調でしゃべってほしい。
- ・ 聴いてほしいというポイントがなかった。単調であった。

【木辻清子委員】

- ・ 単調だったので寝てしまった。インターネット検索で、文章を目で追ってみて初めて内容を理解した。インパクトが薄い。

【宮川清委員】

- ・ 皆さんと同じような意見である。
- ・ シナリオを読んでいるだけに感じた。学生4人の話し方が同じトーンでやはり眠かった。
- ・ 結局、本質が何かを考えることができずにシナリオになっているのではないか。
- ・ 「ヘクタール」という単位が出てきたが、考えているうちにどんどん次に進んでいってしまい内容がわからなくなった。

【放送事業者側出席者：金千秋】

- ・ 震災に関する事柄はコミュニティラジオの役目として伝えていかなければならないと思っ

ている。特に今期の学生は1995年当時2～3歳で震災を記憶していない世代である。

- ・ コミュニティラジオについてや、なぜ、震災に関することを語り継がなければならないのかを講義しているが、取材後、その音声データを編集するテクニックを教える時間が足りなかった。阪神・淡路大震災後に多彩な分野で市民活動をしている方々8人をピックアップして、学生にプロフィールを紹介したのち、誰を取材したいかは学生に選ばせた。アポイントメントを取り、実際にお会いするまでも学習の一環であり、その人の何に心が震えるかという体験をしてもらいたかった。
- ・ ご本人の声を直接聴いてもらえれば素晴らしい番組になるのは十分理解しているし、すでにそのような番組は放送している。
- ・ 学生が担当しているのは実験番組でありいろいろなやり方を試している。学生を育てる場であると考えている。今後20年くらいして彼らが社会の次の戦力になることを期待している。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して採った措置及びその年月日
担当者に連絡（平成24年7月16日予定）

8. 審議機関の答申または意見を公表した場合における公表内容、方法、年月日
公表内容…議事の内容
公表方法…自社放送（平成24年7月14日12:00～13:55の番組内で放送予定）
事務所に議事録の備置き（平成24年7月6日）
ホームページに掲載 <http://www.tcc117.org/fmyy/index.php?cl=13-98>

9. その他参考事項
特になし

以上